

渡辺復興大臣宮城県訪問ぶら下がり会見録  
(平成30年11月19日(月)16:37~16:42 於)仙台市)

1. 発言要旨

本日、宮城県の利府町、松島町、塩竈市、七ヶ浜町、多賀城市、仙台市、岩沼市、亘理町、山元町の9市町を訪問し、復興大臣就任の御挨拶と現地視察をしてまいりました。

今回の視察では、地域の重要産業である観光業の拠点や水産関連施設、再整備が進められている中心市街地等、また震災遺構や移転跡地に整備された市民のための公園、2020年東京オリンピックでサッカー競技が行われる予定のひとめぼれスタジアム宮城などを訪問いたしました。市長・町長から復興の状況や現在の課題について伺ったほか、被災者や民間事業者の方々から直接お話をお伺いすることができました。

視察を通じて、復興が着実に進展していると感じる一方で、心のケアや産業・生業の再生、地域の活性化など、引き続き取り組むべき課題があることも改めて認識したわけであります。

今後も現場主義を徹底し、被災者に寄り添いながら、着実に被災地の復興に務めてまいりたいと思います。

以上でございます。

2. 質疑応答

(問) 今回の視察で、旧荒浜小学校や岩沼の公園など、震災を伝えるところ、震災の爪痕が残るところを視察されましたけれども、それを見て、どのようにお感じになったかということと、今後、どのようにしていきたいかという2点、伺えればと思います。

(答) 荒浜小学校、更には千年希望の丘を視察させていただきましたけれども、こういった震災の遺構については、やはりしっかりと残していく必要があるだろうというふうに思います。

それはですね、震災の風化が進んでしまう、これが一番の私は問題点であるというふうに思います。風化を防いでいくためにも、震災遺構の重要性というのは今後もしっかりと認識し、取り組んでいく必要があるというふうに思います。

(問) 2020年度までの復興・創生期間が間もなく終わりに差しかかっている中で、今後、そこまでに終了しない部分も出てくると思いますが、そこからの見通しについては、どういったふうに感じていますか。

(答) まずはですね、2020年度までにしっかりと取り組んでもらわなければなりません。その上で、様々な進捗状況、更にはですね、課題が出てまいりますので、その進捗や課題を整理しながら今後の対

応について考えてまいりたいというふうに思っております。

具体的に申すならば、今年中には、この課題の整理をし、今年度末には方向性を示してまいりたいというふうに思います。

（問）大臣、心のケアが重要だと、課題だとお話になりましたけれども、具体的にどういったところを。

（答）まずはですね、復興住宅に入居なさっている人たちにとっては、震災前の自分たちが生活していた拠点と、また違うわけであります。そういった状況を考えていきますと、お隣の人とのつながりというものが希薄になっていくのではないかと。そういった状況をなくしていくためにも、そのつながりをどのように求めていくか、作っていくのが大事なのか、こういった視点が、大事ではないかなというふうに思います。

それがいわゆる被災者にとって、心のケアとしての、私は第一歩ではないかな、そのように思っています。

（以 上）